

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人奈良女子大学

1 全体評価

奈良女子大学は、女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的としている。第3期中期目標期間においては、①古都奈良に生まれ育まれた日本文化の洞察を通じ、ローカルかつグローバルに活躍できる女性リーダーを育成すること、②基礎物理学・分子科学・基礎生物学・高エネルギー物理学を中心に理工系諸分野の研究を進め、理工系女性リーダー育成モデルを構築すること、③新たなライフスタイル創造の教育研究拠点を形成し、担い手としての女性リーダーを育成することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「留学サポート制度」や「単位認定留学制度」の創設等、学生の海外留学促進のための取組を実施するとともに、令和4年4月の奈良教育大学との法人統合に向け、統合の柱となる基本方針についての検討を進め、新法人の設置構想として取りまとめるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 関西文化学術研究都市周辺の研究機関・企業とのスマートテキスタイルのような新素材、IoTのような情報処理技術を用いた健康管理・快適性向上に関する研究を推進している。その中の一つとして、呼吸や心拍が計測できるIoTセンシングウェアやビッグデータに基づいて健康的な生活方法をアドバイスするナースロボット等の研究開発に主導的に取り組んでおり、令和2年度ヒューマンインタフェース学会第21回論文賞を受賞するなどの成果をあげている。（ユニット「文理を超えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成」に関する取組）
- 全ての学生が確実に地域志向科目を修得して卒業する体制を整えるため、令和3年度から開講する新たな地域志向科目の内容について検討し、教養教育科目「奈良を知る」の開講を決定している。また、地域志向科目「『奈良』女子大学入門」（受講者467名）において、吉野杉の魅力やニホンオオカミの研究、紀伊半島におけるニホンジカの食害等について講義を行うとともに、大学が行っている「奈良の食プロジェクト」や吉野郡下市町の高齢者の営農を支える「らくらく農法」等の地域活動を紹介するなど、大和・紀伊半島地域への関心を高める取組を実施している。（ユニット「大和・紀伊半島から世界へ、世界から大和・紀伊半島へ、教育研究のグローバル化の推進と地方創生」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載20事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 女性教員比率の上昇

令和2年4月に「次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく奈良女子大学行動計画」を策定しており、令和2年度の女性教員比率は対前年度比1.3ポイント増の40.3%で、同計画に掲げた目標（女性教員比率38%以上）を上回っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 学生の海外留学促進のための取組

派遣留学生への経済的支援や各種説明会の実施に加え、留学を予定している学生に対し、留学経験のある学生をサポートとして配置する「留学サポート制度」や、海外協定大学との交換留学以外でも大学が指定する留学先で修得した単位を認定できる「単位認定留学制度」を新たに創設している。また、留学希望者への英語教育等を目的とし、オンライン・マンツーマン英語レッスンを組み込んだ英語ネイティブ教員による授業を開講しており、40名の学生が受講している。